

子ども用

伝道地便り

2019年 第2期 南アメリカ支部

- | | |
|-----------------------|------|
| 第1話 「お父さんをびっくりさせた女の子」 | ブラジル |
| 第2話 「誕生日ケーキはいらない」 | ブラジル |
| 第3話 「パパへの歌」 | ブラジル |
| 第4話 「安息日は学校を休みます」 | ペルー |
| 第5話 「レンズの一番好きな安息日の活動」 | ペルー |
| 第6話 「風は吹いていたが火は止まった」 | ペルー |



セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部

伝道地便りの用い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

1. お父さんをびっくりさせた女の子

ブラジル



ビアトリス・シルバ・サウザ 8歳

ブラジルのアラカジュに住む8歳のビアトリス・シルバ・サウザは、家でおもちゃの片付けや、両親の手伝いをしませんでした。

それから、宿題もしませんでした。ビアトリスがどんなに宿題をするのが嫌いだったか！

ある朝、お母さんが言いました。「ビアトリス、きれいな服をきなさい。教会に行くわよ！」

お母さんはラジオでセブンスデー・アドベンチスト教会について知り、聖書をもっと学びたいと思いました。お母さんはお父さんも一緒に行こうと誘いましたが、お父さんは頭を横にふりました。

ビアトリスは教会が好きでした。大人も子どももフレンドリーでした。ビアトリスは教会のアドベンチャークラブに誘われて、大喜びで参加しました。ビアトリスは新しい青色のスカート、白いブラウスとオレンジ色のネクタイの制服を誇らしく思いました。やがてお母さんはイエス様に心を捧げ、バプテスマを受けました。

しばらくして、お父さんはビアトリスの変化に気づきました。朝起きるとすぐにベッドを直します。おもちゃはあるべきところに片付け、自分のクローゼットや洋服たんすはとてもきれいに整理

整頓されています。学校から帰ると、言われる前に宿題を済ませます。毎日床の掃除をします。夕飯のあとには食器を流しまで持っていき、洗って片付けまでします。

「娘よ、何が起こったんだい？」とお父さんはたずねました。「どうしてこんなにお手伝いするようになったんだい？」

「アドベンチャークラブで自分の親を手伝うように学んだの。」とビアトリスは答えました。

「なんて素晴らしいんだ！」とお父さんは叫びました。

お父さんは「ああ、神様は本当に人々の心を変えることができるんだ！ビアトリスはとっても怒りっぽくて反抗的だったのに、今は優しくてお手伝い上手だ。」と思いました。

それからお父さんは自分の人生を振り返りました。そして神様に自分も変えてほしいと思いました。ほとんど毎日お酒を飲んでいて、自分ではお酒をやめられずにいたからです。

お父さんは静かに祈りました。「親愛なる神様、もしあなたが私の娘の生き方を変えたのなら、お願いです、私の生き方も変えてください。私も彼女のように変わりたい。お酒を飲むのをやめたいのです。」

お父さんはビアトリスが1ヶ月ずっとよく手伝うのを見て、確かに新しくされた娘と、今自分は接しているのだと悟りました。ビアトリスは過去とは全くの別人でした。お父さんは教会で聖書を学ぶことをお願いしました。

毎週聖書の勉強しても、お父さんはお酒を飲むのをやめることができませんでした。お父さんはヨハネによる福音書8章36節にあるイエス様の言葉を読みました。「だからもし子があなたたちを自由にすれば、あなたたちは本当に自由になる。」

そして、お祈りしました。「主よ、あなたのみ言

葉に、「あなたが私を自由にすればわたしは本当に自由になる」と書いています。私はお酒から自由になりたいのです。私も妻のようにバプテスマを受けて自由になりたいのです。」

お父さんはお母さんがバプテスマを受けた7か月後の2017年9月にバプテスマを受けました。ビアトリスはお父さんが水からあがるとき喜びの涙を流しました。お母さんも喜びました。

「今、私と私の家とは主に仕えています」と彼女は言います。

お父さんはバプテスマを受けた瞬間から、お酒を飲みたいと思わなくなりました。

「我が家は良い方になりました。」とお父さんのカルロス・アルベルト・デ・サウザ（60歳）は言います。そして、満面の笑みを浮かべながら、次のように言いました。「私は神様が自分をアルコール依存症から救ってくださるなんて思ってもみませんでした。しかし、神様には人間を変える力があります。私は新しくつくりかえられた存在なのです。そして私はとても幸せです。」

今回の13回献金の一部はビアトリスが住むブラジルのアラカジュに新しい教会を開くのに使われます。ビアトリスと彼女の家族が現在礼拝に行っている教会の建物はとても小さいため、献金はより大きな建物の費用に用いられます。

<お話のポイント>

- ・ブラジルのアラカジュを地図で探してみましよう。
- ・ビアトリスのお話から家の掃除やベッドを直すことについてどう思うか聞きましょう。
- ・子どもたちにビアトリスのようになるよう勧めましょう。そして、ビアトリスのお手伝いが彼女のお父さんの生き方をすっかり変えたように、子どもたちの変化が、神様が両親を変える助けになることも伝えましょう。
- ・ビアトリスの安息日学校の先生についてもリンク先で読みましよう。: bit.ly/my-new-boss
- ・ビアトリスのお父さん、カルロス・アルベルト・

デ・サウザのビデオを見ましよう。:

link:bit.lu/Carlos-Souza

・このお話の写真をリンク先で探しましよう。:

bit.ly/fb-mq

2. 誕生日ケーキはいらない

ブラジル



ジュリアナ・サントス・フェレイラ 12歳

ジュリアナが11歳の誕生日ケーキを断ったことは、お母さんにとって予想外のできごとでした。

「あなたにチョコレートケーキを焼こうと思っているわ。」とジュリアナの誕生日の数日前にお母さんは言いました。

しかしジュリアナは、「大丈夫よ、いらないわ。」と言ったのです。

お母さんは驚いて彼女を見つめました。

「どうしていらないの？」と聞くと、

「私、ケーキをもらうよりホームレスの人たちにご飯をあげたいの。」とジュリアナは言いました。

「ホームレスの人たちにスープを作ってあげたいと思ってるの。」

お母さんとジュリアナが出かけたときに、バス停で眠るホームレスの人たちを見ました。ジュリアナは彼らのことを忘れられなかったのです。

「とても難しいし、大変な事よ。材料にお金がかかりすぎるわ。それに、私たちにはたくさんのお金を必要とする大きな鍋がないわよ。」お母さんは言いました。

それでもジュリアナは諦めずにこう答えました。

「私はホームレスの人たちにスープをあげたい

の。これは神さまの仕事よ。」

ジュリアナは神様について、ブラジルのサルバドールにあるセブンスデー・アドベンチスト教会で学びました。教会に初めて行ったのはパスファインダークラブに参加したかったからでした。近所の友達がパスファインダーの制服を着ているのを見て、自分もパスファインダーに入りたいと思ったからです。パスファインダーに入って、彼女は自分の心をイエス様に捧げて、バプテスマを受けました。

お母さんはジュリアナが神様を大好きな様子を見て喜びました。しかし、お母さんは教会に行くことに興味はありませんでした。

お母さんが大きな鍋でないとスープを作れないと言ったあと、ジュリアナは何人かの近所のアドベンチストを訪ね、大きな鍋を借りられないか聞きました。2人の隣人が彼女に大きな鍋を貸してくれたので、誕生日の3日前に2つの鍋を家に持って帰りました。

しかし、彼女はまだスープの材料を持っていませんでした。その問題はどうにもなりそうになかったので、ジュリアナはお祈りしました。「神様、どうか私に知恵をください、お母さんの心に触れてください、ホームレスの人たちのためにスープを作るのを許してくれますように。」

次の日、ジュリアナは恐る恐るお母さんにホームレスの人たちにスープを作ってもいいか尋ねました。

お母さんは怒りながら、「スーパーマーケットに行ってスープ用の食材をもらえるか聞いてきなさい！」と言いました。

実は、お母さんはジュリアナが恥ずかしがり屋なので、お店に行かないと思いました。

しかし、ジュリアナは喜んでスキップしながら近所のお店に行き、「神様、私の祈りにこたえてくれてありがとうございます。」とお祈りしました。

お店の店長に自分がホームレスにスープを作りたいと思っている強い気持ちを伝えました。店長は次の日また来るようにいいました。

ジュリアナはほかのお店にも行きました。他の店の店長もまた次の日来るようにいいました。そして、ジュリアナは再び近所のアドベンチストのところにも行きました。すると材料の野菜を持って来てくれることを約束してくれました。

ジュリアナの誕生日の前日、放課後に最初に行ったスーパーマーケットに寄ると、大きな袋にたくさん入った野菜をもらえました。他のお店も彼女に食べ物をくれました。それから近所のアドベンチストの人たちも彼女の家ドアをノックして食べ物を持ってきてくれました。

お母さんは袋にたくさん入った玉ねぎ、チリペッパー、ポテト、ニンジン、カボチャ、コーン、スパイスそれから他のスープの材料を見て驚きました。

「これ、どうしたの？」とお母さんがきくと、

「これからお母さんが作るスープの材料よ！」ジュリアナは嬉しそうに答えました。それからお母さんに、借りてきた2つの大きな鍋を見せました。

お母さんはジュリアナのホームレスを助けるという強い決意に驚きつつ、自分がスープを作ることができないことを認めざるを得なくなりました。アドベンチストの女性たちがそれに気づき、スープ作りを手伝ってくれました。

彼女の誕生日に、ジュリアナはパスファインダーの制服を着て、他の友達と2つの大きな鍋を車に積み込みました。バス停につくと、だれかが言いました。「今日はジュリアナの誕生です。そして、彼女はこのスープを皆さんのために作りました！」

ホームレスの人たちはとても喜びました。彼らはジュリアナの周りに円になって、ハッピーバースデーの歌を手をたたきながら歌ってくれました。

お母さんはホームレスの人たちを助けることに賛成しなかったことを恥ずかしく思いました。そして、ジュリアナが神様の愛に満たされていることに気づきました。お母さんは自分も神様の愛で満たされたいと思いました。なんと、ジュリアナ

の誕生日から2か月後、お母さんはバプテスマを受けたのです。

今日、ジュリアナとお母さんと他の教会員は1か月に2回ホームレスに炊き出しの奉仕をしています。

今回の13回献金の一部はブラジルのサルバドールで、人々が聖書研究をしたり、健康的な料理教室を受けたりする場所を開くために使われます。皆さんの献金を感謝します。

<お話のポイント>

- ・地図でブラジルのサルバドールを見つけましょう。
- ・子どもたちにジュリアナのホームレスにご飯をあげるアイディアについて、どう思うか聞いてみましょう。
- ・子どもたちに今週だれを助けることができるか聞いてみましょう。
- ・ジュリアナのビデオを見てみましょう。:
bit.ly/Juliana-Ferreira
- ・ジュリアナのお母さん、マリア・デ・ファティマ・ドウメリー・サントスのビデオを見てみましょう。:
bit.ly/Maria-Santos
- ・このお話の写真を探しましょう。[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

3. パパへの歌

ブラジル



カリーヌ・カルドソ・デ・オリベイラ 7歳

小さなカリーヌにとって、その日曜日は素晴らしい日でした。

4歳のカリーヌは両親とブラジル、サルバドールにあるショッピングセンターにお出かけしていました。その日、お父さんはチョコレートケーキを買ってくれました。

翌日、お父さんは警察官の制服を着て出かけた後、一か月帰ってきませんでした。

ある日の午後、お母さんは電話を取りました。そして、「おいで」とお母さんはカリーヌを呼び、「おばあちゃんの家に行くわよ。」と言いました。

その夜、お母さんは泣き始めました。カリーヌはなぜお母さんが泣いているかわかりませんでした。お母さんを抱きしめました。「神様を信じるようにお母さんが教えたでしょ。」とカリーヌは言いました。「そうね、信じましょう。全てが大丈夫になることを。」お母さんは静かに娘を抱きしめました。

朝、お母さんはカリーヌをおばあちゃんに預けてでかけました。そして夜になると戻ってきまし

た。次の日も同じことが繰り返されました。

一週間後、カリーヌはお父さんのことを思いました。「パパはどこ？」とお母さんに聞きました。

お母さんはためらいながら、「パパは事故にあったの。」と言いました。「病院にいるのよ。」

カリーヌの顔に不安が浮かびました。すぐにお母さんは言いました。「心配しないで。イエス様は奇跡を起こすでしょ、パパにも奇跡を起こしてくださいさるわ。」

その夜、お母さんは聖書を開き、カリーヌにイエス様が目の見えない人の目を開かれた話をしました。また、他の奇跡のお話もしました。イエス様が長血の女性をいやした話、ラザロを死からよみがえらせた話、イエス様がダニエルをライオンの穴の中で守ったお話、そして燃える炉の中からダニエルの三人の友達を救ったお話。

お母さんが聖書を閉じたとき、まだお母さんは悲しそうでした。そこで、カリーヌは歌を歌うことにしました。「歌は私の心に希望を運んでくるの。」と彼女は言いました。「お母さんも希望を持つ必要があるわ。」

お母さんはカリーヌの澄んだ、純粋な声を聴くのが好きだったので、カリーヌの歌を喜んで聞きました。

それから一か月がたち、お父さんが家に帰ってきました。疲れているようでしたし、動きもゆっくりでしたが、カリーヌはお父さんの腕の中に飛び込みました。「歌を歌ってお父さんのお世話をするね」

すぐにカリーヌはお気に入りの「ハレルヤ」という歌を歌いました。カリーヌはイエス様を礼拝するのがどれほど大好きか、そしていつの日かイエス様の足元で「ハレルヤ」を歌うことはどんなに素晴らしいことか、歌いました。

カリーヌはお父さんが仕事に復帰するまで、毎

日お父さんに歌い続けました。

現在、カリーヌは7歳で両親と一緒にいろいろなセブンスデー・アドベンチスト教会に行き、イエス様の癒しの奇跡のお話をしています。

カリーヌのお父さんのアンドレは、彼と二人の警察官が2014年9月8日にサルバドールの犯罪地区を運転しているときに銃撃にあった事件を教えてくださいました。お父さんは頭を打たれていたにも関わらず、1ヵ月後に病院を退院できたことを医者たちは驚きました。

カリーヌのお母さん、ジョセニスには人々に、あの辛い1か月の間の娘の神様に対する信仰を証しています。「カリーヌは私よりずっと信仰深いです。父親に何があったかわからなかったにも関わらず、彼女はいつも神さまがすべてを解決してくださると信じていたのです。」

カリーヌが「ハレルヤ」を歌うとき、彼女は気持ち全てをその歌に込めます。

「歌いながら、神様を礼拝しているのです。」とお母さんは言います。「人々は彼女の歌を聞くと涙を流します。」

カリーヌはいつも神様のことを礼拝したいと次のように言っています。

「大きくなったら、お説教をして歌いたいの。少ない人数でも、何万人の前でも関係ないの。ただ神様を礼拝したいのよ。」と。

<お話のポイント>

- ・地図でブラジルのサルバドールを探しましょう
- ・カリーヌのお母さんの短いインタビューを見ましょう。: bit.ly/carine-mother
- ・カリーヌが歌うビデオを見ましょう bit.ly/Carine-Oliveira
- ・このお話の写真を見ましょう。: bit.ly/fb-mq

4. 安息日は学校を休みます

ペルー



ルイス・コンドリ 11歳

ルイスはペルー中の全ての公立学校が休校になって、突然の休みを手に入れました。先生たちがもっと良い給料を求めて、2か月間働くことをやめたからです。

ルイスの学校が再開したとき、先生は子どもたちに2か月の休みの穴をうめるために一生懸命勉強するよう伝えました。先生は毎週土曜日を追加の授業日として増やしました。

ルイスは土曜日に勉強をしたくありませんでした。彼はその年の初めに、自分の町クスコでVBS(夏期聖書学校)に参加しイエスキリストに従うことを決めてバプテスマを受けたからです。

金曜日、先生が子どもたちに明日学校に来るよう、呼びかけました。そして大事なテストがあることを伝えました。

ルイスは金曜日の最後のクラスの後、緊張しながら先生のところに行きました。「ぼくはセブンスデー・アドベンチストです。お願いします、違う日にテストを受けさせてください。土曜日は教会に行っています。」と伝えました。

先生は一瞬考えて、「あなたの成績を見てみましょう」と言いました。イエスかノーか、という返

事ではありませんでした。

しかしそれを聞いて、ルイスはいつも良い成績を取っていたので、きっと先生が許してくれるだろうと思いました。お家に帰り、クリスチャンでない両親にこの状況を伝えました。

「先生にかかっているわね」とお母さんは言いました。「もし先生が許可をすれば土曜日に学校に行かなくてもいいわ。でも、もし先生が許可しなかったら、学校に行きなさい」

寝る前にルイスは祈りました。「どうか先生が許可をくれるよう、ぼくを助けてください」「安息日はあなたが聖別するように決めた日です。だからぼくはその日に礼拝したいと思います。」

まだ先生は許可をくれていませんでしたし、お父さんとお母さんも許していません。それでも、ルイスは安息日に学校に行かないことを決めました。

教会でルイスは、この問題について誰にも話しませんでした。しかし神様に、先生を説得して、土曜日のクラスに出なくてもいい許可がでるようお祈りし続けました。

月曜日の朝7時にルイスが学校についた時、ルイスは緊張していました。先生と話したくありませんでした。

一日中、先生は彼に何も言いませんでした。一日の終わりに子どもたちが帰るとき、先生は教室の前に彼を呼びました。ルイスは緊張しながら前に行きました。すると先生はほほえみました。

「いいでしょう」と先生がいったのです。「あなたの成績は優秀だわ。土曜日の分の勉強を他の日にするなら許可をしましょう」

ルイスはとても感動しました！ 神様は彼の祈りにこたえてくださったのです。幸せな微笑みを顔に浮かべ、できるだけ早く走って家に帰り両親に伝えました。

「わかったわ。それじゃあ教会に行けるわね。」

お母さんが言いました。

ルイスがその夜寝る時、このように祈りました。

「安息日に教会に行けるよう許可をもらうのを助けてくださってありがとうございます。」そして翌朝、起きた時にももう一度神様に感謝をささげました。

素晴らしい祈りの結果の後、今ルイスは不可能だと思えることを祈っています。それは、彼の両親がバプテスマを受けることです。「神様が、安息日に学校へ行けるようにというぼくのお祈りにこたえてくださったのだから、ぼくの祈りをまた聞いてくださることを確信しています。」

今回の13回献金の一部は、ルイスの住む町に子どもたちや青年たちが毎日、聖書を学べる特別な場所を開くために使われます。その特別なコミュニティセンターは英語のレッスンや、音楽のクラス、他のアクティビティもイエス様について子どもたちに伝えるために開かれます。皆さまの献金を感謝いたします。

<お話のポイント>

- ・ペルーのクスコを地図で探しましょう
- ・ルイスのビデオを見ましょう。:

bit.ly/Luis-Condori

- ・このお話の写真を見ましょう。: bit.ly/fb-mq
- ・VBS（夏期聖書学校）の何が好きか子どもたちに聞きましょう。ルイスはVBSで神様を賛美したり、力強いみ言葉、イエス様のみ名を通して終わるお祈りが好きでした。
- ・「神様に直接お話するのが好きなんだ」とルイスは言います。

5. レンゾの一番好きな安息日の活動

カナダ



レンゾ・フローレス、11歳

11歳のレンゾは安息日の礼拝の後に昼寝をしたり、友達と遊んだりしません。お昼ごはんが済むとすぐ、お父さんと一緒に教会に来なくなった人達を訪問します。

教会長老であるお父さんは牧師先生から名前や住所のリストをもらっています。リストに従い、レンゾとお父さんはペルーのプカルパという町で、リストの家を訪ねるのです。

レンゾはドアをノックします。

すると、教会に長い間来なくなっている人がドアを開けて出てきます。

「こんにちは」とお父さんは挨拶をし、「あなたのために、お祈りさせてください。」と伝えます。

誰もドアをボタンと閉めたりしません。お父さんとレンゾは、いつも家の中に招かれます。家にいる人が一人の場合もありますが、たいていは家族と一緒に家にいます。

一旦中にはいると、お父さんは「愛する神様、この方の心を変えてくださるよう祈ります。そして、また教会に来れるように助けてください」と

お祈りします。

それからお父さんは言います。「聖書のみ言葉を話させてください。」お父さんは聖書を開き、神様が人々をゆるし、彼らをまたイエス様のもとに戻ってくるよう招いておられる、というみ言葉を読みます。特に詩篇 23 篇が好きで、それは次の言葉から始まります。「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。」また、ルカによる福音書 15 章 11～32 節の放蕩息子のお話も読みます。

読み終わると、お父さんとレンゾは、二つの讚美歌を一緒に歌いましょうと誘います。讚美歌の一つはいつも「主はわが岩なり」(※希望の讚美歌 321 番) です。

歌が終わると、教会を休んでいる人に聞きます。

「あなたの信仰・霊的生活はどうか?」

お父さんは家族のことについても聞き、訪問の最後は次の安息日に教会に来るように招待します。

お父さんが最後にお祈りをしますが、レンゾがお祈りをすることもあります。

レンゾが祈る時、彼は「愛する神様、この方があなたの愛と、イエス様が罪をゆるすことのできるお方だということを理解できるよう助けてください。アーメン」とお祈りします。

1箇所への訪問は大体 30 分ほどで、お父さんとレンゾのチームは午後の教会でのプログラムが始まる前に毎週必ず 2 つの家を訪問しています。

聖書とエレン・ホワイトを読むのが大好きなレンゾは、一度安息日午後のプログラムを、“イエス様がまもなく来られること”をエレン・ホワイトの本「最終時代の出来事」を元に担当したことがあります。

今までにお父さんとレンゾは 15 人もの人を訪問し、5 人が教会に戻ってきました。

レンゾはイマニュエルの家を訪れた時のことを特に覚えています。イマニュエルの 10 代の娘が

ドアをあけ、レンゾとお父さんを迎えてくれました。

イマニュエルの奥さんと二人の子どもたちは、毎週安息日に教会に来ていましたが、イマニュエルは2か月前から教会に来なくなりました。来なくなった理由について、病気になりしばらく教会から離れ、最近は病気が良くなったが安息日に仕事をするようになった、と説明しました。

彼の年老いた母親もまたアドベンチストでしたが、レンゾとお父さんが讃美歌を歌い、自分の息子とともに祈ってくれたことを見て喜びの涙を流しました。そして、イマニュエルは次の安息日に教会に戻ってきました。

「安息日に教会でイマニュエルに会えてとっても嬉しかった」とレンゾは言います。「僕たちの誘いに応えて、人々がイエス様の元に、そして教会に戻ってくるのが好きなんだ」

レンゾは今、公立学校に通うクラスメイトを訪問するという彼の新しい計画に、お父さんも加わってほしいと思っています。

「イエス様が僕の心を変えたんだ」と彼は言います。「お父さんに手伝ってもらって、聖書の勉強を友達と一緒にして、教会に友達を招きたいと思っているんだ」

今期の13回安息日献金はレンゾの住む町、プカルパに新しい教会と診療所を作るために使われます。より多くの人々がイエス様のことを学び、安息日に礼拝をする場所を持つためです。あなたの献金を感謝します。

<お話のポイント>

- ・地図でペルーのプカルパを探しましょう
- ・子供たちに詩篇 23 篇を暗唱するよう言いましょう。なぜこの聖句が誰かを教会に行くよう励ますのか聞いてみましょう。
- ・子供たちに彼らの安息日の午後の活動で一番好きなことは何か聞いてみましょう。

6. 風は吹いていたが火は止まった ペルー



アレサンドロ・ゴンザレス・クエラール 52歳

ペルーに住む農家で、4人の子どもの父親であるアレサンドロにとって、お昼ごはんを作ることは面倒なことでした。

まず、はじめに地面に大きな穴を掘る必要があります。次に木と石を穴の中に入れ、火をつけます。炎が石を赤くし、それから黒色になるとその上にイモを入れるのです。そして最後に、イモを土と冷たい石で覆い、火が消えるのです。ポテトは熱くなった土の熱で焼かれ、20分後に食べられるようになります。

アレサンドロはその作業をしなければならなかったため、彼の麦畑の小さい一角に穴を掘りました。作物は乾燥していて、もうすぐ収穫という時でした。アレサンドロはいつものように木と石を穴の中に入れ、火をつけました。

すると、強い風が吹き始めました。

炎がゆっくりと穴の中で大きくなりはじめ、風が火の粉を含みながら麦畑に吹いていきました。火の粉はすぐに乾燥した茎に燃え移り、炎になり、風にあおられ畑をまるで、レースをしているかのように突きぬけ隣の麦畑に燃え移りました。近く

には近所の人々の畑もいくつかありました。

アレサンドロは怖くなりましたが、どうすることもできずにそれを見ているしかありませんでした。生のイモが彼の足元に置かれたままでした。風は更に強く吹き、手で頭を押さえなければ帽子が飛んでしまうほどでした。炎はもはや制御不能で、彼には止めることはできませんでした。彼はひざまずき、帽子を取り次のように祈りました。

「神様、あなたは何をされているのですか。」彼は叫びました。「もし全部の作物が燃えてしまったら、近所の人にお金を払い弁償することができません。どうか奇跡を起こして、炎を消してください。アーメン。」

彼は立ち上がって炎を見ました。もう一度見ました。まだ燃えています。しかし、炎は動いていませんでした。風はまだ強く吹いていましたが炎はそこにとどまって燃えていました。まるでそこで見えない壁にせき止められているかのようでした。

アレサンドロは自分の目を疑いました。

「これは奇跡だ！」彼は叫びました。「神様ありがとうございます！」

彼は近所の人々の家まで走り、畑が燃えていること、そして助けが必要なことを伝えました。アレサンドロは彼らが畑に来て、何が起きているかを見てほしくありませんでした。

近所の人たちが走ってきて、畑に集まりました。その時には、炎はほとんど燃え尽きそうになっていました。アレサンドロの祈りのあと、炎はそれ以上燃え広がらませんでした。アレサンドロと近所の人たちは残った火に土をかけて消しました。

一人の人が怒り狂ってアレサンドロを殴ろうとしました。しかし、他の人が止めながら「これは奇跡だよ。炎がここで止まらなかったら、私たち

みんなの畑に燃え広がり全部焼失していただろう。」と言いました。

結局、アレサンドロはその炎が彼の作物と他の3人の隣人の約650ポンド(300キロ)程の麦を焼き尽くしたのを見ました。自分の麦を収穫すると、彼は隣人が失った分の麦のお金を払いました。みんなが喜びました。

イモのお昼ご飯はどうなったのでしょうか？アレサンドロと彼の家族はそのイモを食べることができませんでした。なぜなら、灰になるまで燃え尽きたからです。ですが、彼らは気にしませんでした。神様が奇跡的に炎を止めてくださり、災いから守ってくださったからです。

「神様は炎を止めてくださいました。なぜなら、私が神様の力を信じたからです。」とアレサンドロは言います。「祈りの中で奇跡を求めました、そして神様はその奇跡を起こしてくださったのです。私の人生において神様はたくさんの奇跡を起こしてくださいました。」

アレサンドロの人生において、一番大きい奇跡は彼が800人もの人たちをキリストに導き彼らがバプテスマを受けた事です。彼は単なる農夫で小学校1年生以上の勉強をしたことがなかったにも関わらず、聖書研究を受け、彼の村カカッコとその地域で6つものセブンスデー・アドベンチスト教会を設立しました。

今期の13回献金の一部は、子どもたちと青年たちのためのコミュニティセンターをアレサンドロの村からバスで1時間程行ったところにあるクスコに開くために使われます。このコミュニティセンターでは人々にキリストを紹介するために英語を教えたり、他の様々なアクティビティをする予定です。皆さんの献金を感謝します。

<お話のポイント>

- ・地図でペルーのクスコを探しましょう。
- ・子どもたちに、彼らの好きな安息日午後の活動を聞いてみましょう。
- ・ペルーの多くの村人の様にアレサンドロはケチュア語しか話しません。このお話を聞くために、

アドベンチストミッションは2人の通訳を必要としました。1人はケッチワ語からスペイン語に、1人はスペイン語から英語に通訳してもらったためです。

・アレサンドロの村には500人の住民がいますが、村の教会は300人ものバプテスマを受けた教員がいます。

・アレサンドロについてリンクで更に読んでみてください。: [Bit.ly/Alejandro-Bibles](https://bit.ly/Alejandro-Bibles)

・アレサンドロのビデオを見ましょう。:

[Bit.ly/Alejandro-Fire](https://bit.ly/Alejandro-Fire)

・このお話の写真を見てみましょう。[Bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)